

データと対話で紡ぐ集団のマネジメントにおける「個」の最適な意思決定支援

社会情報科学部/情報科学研究科 円谷 友英

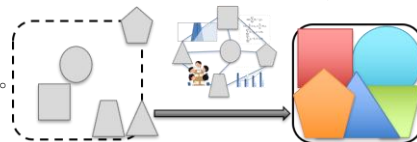


キーワード

意思決定支援、集団マネジメント、ファジィ理論、オペレーションズ・リサーチ、キャリア支援

研究概要

組織、チーム、あるいは行政における市民コミュニティなど、あらゆる人が集まる場(集団)のマネジメントにおいて、本質的かつ重要なのは、それを構成する個々の意思決定の支援です。個々の活躍を抜きにして集団は機能しません。SDGsにも掲げられている「誰一人取り残さない」という視座から意識改革が叫ばれる昨今、多くの現場では抽象的な啓発や感情的アプローチ、あるいは多数決のような一元的な合理性に依存しがちです。しかし真の多様性の受容とは、こういったマジョリティのアプローチではこぼれ落ちてしまうマイノリティの複雑な価値観をも包括することにあります。これを踏まえて、あいまいな人間の心理を数値化するファジィ理論や最適化するオペレーションズリサーチ等の工学・数学的視点をベースに、定量的側面から意思決定の材料を提示するアプローチを研究・実践しています。単純な数値化や効率化一辺倒を疑い、複雑な現実をありのままに見える化することで、あらゆる集団における一人ひとりが、納得して主体的な一歩を踏み出せる意思決定プロセスをデザインします。



アピールポイント

公的政策から個人の進路まで、集団マネジメントを意思決定支援の側面から統合的に取扱う点がこの研究の特長です。対話・伴走スキルと工学・数学のアプローチを融合させ、「感情と論理」「全体と個」を調停します。一元的な合理性を疑い、客観的なデータを用いた納得度の高い支援により、すべての人が自律的に次の行動をデザインできる包摂的な仕組みの社会実装を目指しています。

応用分野

市民協働・行政政策における住民の多様な選好(ニーズ)の抽出と合意形成支援。企業組織やプロジェクトチームにおける個性を活かしたグループマネジメントへの応用。対話と定量を組み合わせた意思決定プロセス支援ツールの開発と実践。理系人材の対話型キャリア支援。